

## 授業概要

日本と世界の民話（昔話）を「民俗学（フォークロア）」の視点から講義する。日本各地には多くの民話が残されているが、それらのあいだには地域の独自性だけでなく、共通性も見られる。さらに近年では、日本の民話と諸外国の民話のあいだにも一定の類似性があることが指摘されている。そこで授業では、実際にいくつかの民話を取り上げながら、みなさんと一緒に分析していきたい。そのため、本コースは講義だけでなく、グループワークやディスカッションといったセミナー形式の授業も積極的に取り入れる。あわせて、「グループ・プロジェクト」、「紙芝居プロジェクト」、「民俗資料報告プロジェクト」という、学生が授業時間外におこなう研究（課題）をクラスメートの前で発表する場も頻りに設けられている。したがって、本コースにおける履修成功のカギは、なによりも学生一人ひとりの主体的で意欲的な関与となることに注意されたい。

## 授業計画

（進捗状況等により変更する場合がある。）

第 1 回	オリエンテーション：本コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第 2 回	日本の民俗学：柳田國男と『遠野物語』
第 3 回	世界のフォークロア：『イソップ寓話』、『グリム童話』を例にして
第 4 回	神話の研究：クロード・レヴィ・ストロウスの研究
第 5 回	日本の神話：世界のできはじめ、天地創造、国生み、神生み
第 6 回	グループ・プロジェクト発表会
第 7 回	日本各地に伝わる民話：民話研究の歴史
第 8 回	民話の分析方法
第 9 回	日本と世界の民話を比較する
第 10 回	紙芝居プロジェクト発表会（前半）
第 11 回	紙芝居プロジェクト発表会（後半）
第 12 回	日本の民俗学 1：農村のくらしと民話
第 13 回	日本の民俗学 2：漁村のくらしと民話
第 14 回	民俗資料報告プロジェクト発表会（前半）
第 15 回	民俗資料報告プロジェクト発表会（後半）
第 16 回	本コースのまとめ（通常授業）

## 到達目標

1. 民俗学的な視点から民話とは何かを説明できる。
2. 日本各地および諸外国に伝わる民話の地域性および類似性について理解できる。
3. 民話が私たちのくらしのなかで持つ意義（現代的意義）について、具体例を挙げながら考察できる。

## 履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、みずからの責任を果たすこと。ここでいう「みずからの責任」とは、授業に出席するだけでなく、積極的に関与・発言し、さらには課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、みずから取りに来るものである。なお、本コースは文化人類学の基礎的理解を必要とするので、履修にあたっては前年までに文化人類学の単位を取得していることが望ましい。

## 予習・復習

その日に扱うテーマについて自分なりの理解や問題意識を持ってから授業に臨むこと。そのためには、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。授業後は学習した内容についてクラスメートと議論し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題をとおして学んだことをもとに、現代の世界が抱える諸問題についてみずから考える契機としていただきたい。なによりも、旺盛な知的好奇心を育むことが求められる。

## 評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、他の評価項目にかかわらず、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しないと単位の取得は不可となる。①授業への積極的な関与（発言・質疑応答など）20%、②グループ・プロジェクト（発表を含む）20%、③紙芝居プロジェクト（発表を含む）30%、④民俗資料報告プロジェクト（発表を含む）30%

## テキスト

- ・教科書名：日本昔話ハンドブック 新版
- ・著者名：稲田浩二・稲田和子（編）
- ・出版社名：三省堂
- ・出版年（ISBN）：2010年（ISBN 978-4-385-41065-4）